

南部圏域報告

テーマ 平成 29 年度 在宅医療・介護連携推進事業

「地域の救急現場を通じて医療と介護の多職種連携を考えよう！」

平成 29 年 9 月 13 日

大浜第二病院 医療福祉課 古見 寛子

南部地区医師会主催の本研修は各消防署管轄別に開催されており、8 月 21 日(月)豊見城市対象の研修会へ参加してきました。豊見城市消防署をはじめ、市内の医療機関・介護施設・行政などから、医師、看護師、ソーシャルワーカー、事業所管理者などが 93 名の参加者がありました。

第 I 部パネルディスカッションで現状と課題の報告がありました。消防署からは、ここ5年間で救急出動件数が増加、施設からの搬送者は一般に比べ重症者割合が高い現状と、情報が不足していることが課題で、『情報提供書』のひな型を消防署で作成し普及に取り組みたいとの報告がありました。有料老人ホーム(住宅型)は、夜間人員が少なく、緊急搬送時に救急車へ職員が同乗できず、サマリーを渡す対応をしていること、緊急時家族と連絡がとれないことや身寄りがない方への対応が課題との報告でした。救急病院からは、“救急”とは何でも早く診てもらえると誤解されがちだが、正しく理解してほしい、重症化する前に日中で受診をさせることが提起されました。

第 II 部グループワークで「医療と介護の連携における課題と取り組めること」について意見交換が行われました。私のグループでは、◆救急受診するかを施設で判断ができる職員がいない、◆看取りの体制ができていないのは人材不足や教育体制が課題、◆施設で終末期(看取り)の方針を切り出すと信頼関係が崩れてしまうのではと不安、◆受診時に持参される情報が少ない(少ない)、との意見がでました。会場全体では、取り組めることとして◆情報書を普段より準備しておく、◆施設職員の早期発見や看取り教育、◆嘱託医が施設を支援・教育できるしくみづくり、などの報告がありました。

どの分野とも限られた人材・資源の中で、“地域で生活することを支えていけるか”が大きなテーマでした。今後も継続的に意見交換ができるような場が必要であり、各職種・機関が学び、成長していけるよう地域全体で取り組めたらよいと思いました。